

# かんと

平成28年3月15日 発行

第70号

浄土真宗本願寺派組信  
山陰教区神門昭  
発行者藤野昭  
TEL 0853②1628  
FAX 0853②1601

## 神門組団体参拝 (平成29年3月14日~16日) 募集中



実発展とを  
期して、  
平成二十八  
年および  
二十九年  
に、伝灯奉  
告法要をお  
勤めするこ  
とになりま  
した。へ中  
略このた  
びのご法要

私たちの本山・西本願寺では、第二十四代即如ご門主から第二十五代専如ご門主へ、法統が継承されました。このための法要「伝灯奉告法要」について、平成二十七年一月には、専如ご門主がご消息を出されました。その一部は次の通りです。

「去る平成二十六年六月六日、

前門主の跡を承けて法統を継承し、本願寺住職ならびに浄土真宗本願寺派門主として努めてまいりました。ここに法統継承を仏祖の御前に奉告いたしますとともに、あわせて本願念佛のご法義の隆盛と宗門の充

第三十五代専如門主 伝灯奉告法要

その思いから、神門組では来年、平成二十九年三月十四日の法要に、団体参拝を計画致しました。神門組団体参拝は、平成二十九年三月十四日から十六日の二泊三日です。

法要後の初日は京都市内のホテルに宿泊し、二日目は四国の道後に温泉に宿泊します。

団体参拝につきましては、募集要項が皆様の寺院からお手元に届きますので、ご覧になり是非一人でも多くの方が一緒に参拝頂きたいことを希望しています。

以上のよう、このたびの「伝灯奉告法要」をご門主は、私たちの新たな第一歩、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います。〈後略〉

が、親鸞聖人によつて明らかにされた阿弥陀如來の救いのはたらきに依りながら、時代の変化に対応する宗門の新たな第一歩として意義を持つものでありたいと思います。〈後略〉

**平成二十七年度  
神門組門推協議会「住職と  
の意見交換会」に出席して**

明顯寺門徒推進員 米山 克正

標記の会が、去る九月二十六日ビッグハート出雲にて開催されました。その会への参加者の一員として、所感を含めて概様を報告いたします。

この会は、御同朋の社会をめざす運動について、その方向性を見出すために門徒推進員が意見を交換するという趣旨をもつて行われたものです。

開会行事に統いて、光林寺住職・亀谷恵隆師により意見交換テーマ「自分が幸で良いのでしょうか」について基調講話がありました。

金品が豊富なこと、健康であること、家族の人間関係等のことも幸せの要因になることは確かだが、参会者の発言や亀谷師の講評を通して、最も重く心に響いたことは、人として存在していること、生かされていること、地獄行きではなくかった自分に気づかせていただくことの幸であります。西本願寺前門主・大谷光真様は、その著書「人生は価値ある一瞬」に「幸せに生きるために」の章を設け、このことを詳述しておられます。ぜひご一読あらんことをお勧めします。



それに基づいて、参加者が班別となり、七名の住職様のご指導・ご助言をいただきながら、意見交換が進められました。

しかし、各班ともテーマの大さに啞然とした状態からのスタートとなり、サブテーマにまで手が届きにくく、「幸せとは何か」についての話し合いが主たるものとなりました。

金品が豊富なこと、健康であること、家族の人間関係等のことも幸せの要因になることは確かだが、参会者の発言や亀谷師の講評を通して、最も重く心に響いたことは、人として存在していること、生かされていること、地獄行きではなくかった自分に気づかせていただくことの幸であります。西本願寺前門主・大谷光真様は、その著書

「人生は価値ある一瞬」に「幸せに生きるために」の章を設け、このことを詳述しておられます。ぜひご一読あらんことをお勧めします。

巡拜寺院のご住職はもとより、駐車場・道案内、準備、進行等にご協力いただきました方に、心より感謝申しあげます。

大な宇宙の中では小さなチリに等しい地球といえども、そこに生存することを許され「価値ある一瞬」をもち、そして如来様に救われていくことの幸を心から強く感ずることのできた会でありました。

合掌

**総代会  
組内寺院巡拝**

事務局 能正寺 大梶 香恵

平成二十七年十月一日、午後一時半から、神門組總代会恒例の組内寺院巡拝を行いました。今回は西部ブロックが担当であり、多伎町内の三ヶ寺であります、能正寺、清龍寺、西楽寺という順での巡拝となりました。

当日の午前は、局地的な豪雨に見舞われ、一時、開催も危ぶまれましたが、開会時には雨も止み、おかげさまで四十四名のご参加をいただきました。

各寺院では、ご住職の調声により全員で讚仏偈をおつとめし、縁起・歴史のお話をいただきました。そして、西樂寺では、ご住職の法話を聴聞し、有意義な時間を共にさせていただきました。

巡拜寺院のご住職はもとより、駐車場・道案内、準備、進行等にご協力いただきました方に、心より感謝申しあげます。

力いただいた方々に、心より感謝申しあげます。

合掌

**二十八年度事業予定**

二十八年度前半の予定が決まっている事業は次のとおりです。

◎組連研（第二十二期）

四月九日・西圓寺にて

◎組仏婦大会

六月十九日・西圓寺にて

◎組仏壯総会・研修会

七月十八日・正蓮寺にて

◎組兒童念佛奉仕団

七月二十七日～二十九日





## 神門組連研 第一十一期終了

神門組では毎年度、連研（連続研修会）を開催しており、平成二十七年度は、第二十一期の連研が十七名の門徒参加により開催、平成終了しました。

連研とは、同一人物が連続して三十六時間の研修を受けるもので

神門組では四月から九月までの毎最終日曜日の六回、各六時間の日程で組内の六寺院を会場に研修を行っています。（会場寺院は毎年変わります。）

研修内容は、仏教と浄土真宗の「門徒推進員」の養成です。

「門徒推進員」とは、連研を終了した人で希望される方が本山・西本願寺で行われる三泊四日の「中央教修」に参加し、全国からの参加者と一緒に、話し合いや研修を受け、宗派（本山）から正式に任命を受けた人です。

門徒推進員は門徒として各寺院や組の行事に積極的に参加し協力する人で、その活躍が各寺院から期待されている人々です。

今回修了されたのは次の十五名の方々です。

川角 敏明さん（西善寺）  
大国 實さん（光林寺）  
山本カツエさん（明教寺）  
吉川 賢二さん（明教寺）

教えや作法・お経の称え方だけではなく、人生や社会に関する「十二の問い」が本山から用意され、グループに分かれて各自が自分の意見を語り・聞き合う「法座」を中心進められます。

「十二の問い」とは、「私にとって幸せとはなんでしょうか」「お淨土とはなんですか」「自分が幸せでよいのでしょうか」「私は、神さまも仏さまも信じていますが、それではいけないのでですか」など、身近な問い合わせです。

この連研の最終目標は、「門徒

八幡	吉一さん
山根	省三さん
堀内	明子さん
飯塚	良久さん
田中	秀昭さん
田中由紀子さん	（西念寺）
廣戸	悦子さん
奥村	京一さん
松原	雅宣さん
内田	（長樂寺）
白銀	秀夫さん
裕明さん	（正蓮寺）

（正善寺）  
（正應寺）  
（西念寺）  
（乘光寺）  
（長樂寺）  
（長泉寺）  
（長樂寺）  
（長樂寺）  
（正蓮寺）

であり、これは宗派からの要請によるものです。

講師は、宗派の同朋運動本部の部長を務めておられた鈴木恭之師（明顕寺前住職）で、宗派が過去に取り組んできた同朋運動について、その内容と成果及び問題点、そして現在起こっている課題と将来の運動がどうあるべきかについて講義を受けました。

修了者の皆様には、各寺院や神門組の法要・事業・活動にご参加またご協力を、宜しくお願ひ申し上げます。

また、連研は毎年開催予定です。皆様の寺院から、お誘いがありますなら、是非ご参加下さい。

続いて三グループに分かれ、それが経験したこと、思うことを話し合い、その後全員で、講師を交えての質疑や意見交換を行いました。住職が身近に経験した人権に対する問題・差別に関する問題や、過去の事例が出され、また、なぜ差別が起ころのかという原点についての話し合いが行われました。

研修会後には、平成二十九年三月の、伝灯奉告法要への神門組団体参拝についての大まかな説明がされました。

この研修会は年二～三回の開催を予定しており、今回は八月に統いて神門組僧侶研修会があり、二十七名の僧侶が参加しました。

研修テーマは、「人権」について

### 神門組 僧侶研修会





## 前進座公演「如月の華」に参加して 神門組寺族婦人会・研修会

寺族婦人会 会長 松田まひる

昨年十月十五日大田市民会館に於いて、「如月の華」—九條武子ものがたり—が満席の中、公演されました。

今回、私達寺族婦人会は年間の研修会の一環として、十三名が参加し、この観劇を通してお慈悲の心を学ばせていただきました。

開演とともに、場内に「武子様、武子様」と、大きく清々しい声が響き渡り、目を見張りました。

武子様は、本願寺第二十一代門主明如上人の次女としてお生まれになり、長じては大正三大女流歌人と謳われた与謝野晶子・柳原白蓮と共に

に、その才を高く評価され名声を博されました。一方では仏教婦人会の設立とともに本部長に就かれ、女性の地位向上、女子教育の充実のため女子大学の設立（現在の京都女子大学）に尽力されました。

大正十二年、関東大震災でご自身も被災されますが一命を取りとめ、

全壊した築地別院を再建し、ここを拠点に負傷者・孤児の救援活動（あそか病院など設立）では、無料診療の実施など先頭に立つて福祉活動に力を注がれましたが、病に倒れられ

昭和三年二月七日、お念佛を称えながら四十二歳の生涯を終えられました。二月七日は如月忌と称して、武子様を偲ぶ法要が勤まります。

劇中、武子様ご臨終の場面で「死は誰にでも平等に訪れます。泣くの往つてまいります。」と、おつしやつてご往生されました。感動の場面に引き込まれながら終演になりました。

関東大震災、あの時の武子様は被災者の救援のために命がけで活動されました。その行動と、このたびの東日本大震災が重なり、ご自身のご生涯をかけて多くの人々が亡くなりました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、ご報告致します。

◎真宗寺(白枝町)前住職 堀西篤行様 (76才)  
平成27年10月30日

◎光明寺(大津町)坊守 藤原二葉様 (70才)  
平成28年1月11日

深い思いでいっぱいになりました。  
実りある一日でした。

日頃、時間に追われるのを言い訳に何もできない私ですが、先ずは自分の身の周りを振り返って、坊守として問題意識を持ちながら、ご門徒の方々のお役に立てるよう努力していきたいと思います。

思えば、この「如月の華」の大きなポスターを、昨年五月本山の降誕会法要にお参りした折、聞法会館口ビーで目にし、しばし見入りました。

大都市だけでの公演と諦めておりましたが、山陰教区でも七年ぶりに公演されると知り、めったにないこの機会にご縁をいただきました。

お骨折りいただきました皆様、本当にありがとうございました。

合掌

## 若手寺院関係者の集い

神門組では「若手寺院関係者の集い」を毎年一回行っています。

この集いは、二十才から五十才の、住職だけでなく坊守や寺族など、お寺に関わる人たちが互いに情報や意見交換をし、将来の寺院や組の活動に生かして頂くために開催しています。

今年で四回目になるこの集いには、二十年後には寺院や門徒を取り

## お悔み

次の方々がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げますとともに、ご報告致します。

◎真宗寺(白枝町)前住職 堀西篤行様 (76才)  
平成27年10月30日

◎光明寺(大津町)坊守 藤原二葉様 (70才)  
平成28年1月11日

## 神門組仏婦 こぶしの会

神門組仏婦連盟では毎年、「こぶしの会」を開催しています。

これは、若婦を中心には、これら各寺の仏婦活動に参加し活動をして頂く人を対象に、基本的な知識を聞き、互いの交流を深めるために行われました。

参加された方々が今後、各寺院の仏婦活動に積極的に参加され、仏婦がより活性化することが期待されます。

今年度は次の通りです。

期日 平成28年2月28日  
会場 願楽寺(白枝町)  
講師 法話・正運寺住職 日渕清毅師  
作法・西念寺住職 雲藤一英師

巻く事情が大きく変わっていると思われる中、若手がお互いを知り、協力できる環境づくりを目指し、昨年は出雲組からの参加もあり、今年は出雲組と出雲南組へ参加を呼びかけました。